生きる指針を明確に

日本国籍の取得
ドナルド・キーン氏の場合

伊藤裕樹西条市倫理法人会会長挨拶「五百回モーニングセミナー参加のお礼」

丸山幸男会長挨拶「梅雨明け宣言。自愛して不断の注意を払うこと」

役員朝礼　役職者の心得唱和

坪井利勝事務長　事務連絡報告事項

釜谷健二新入会員スピーチ「団塊の世代でも、努力すれば必ず報われる。」

「夢かぎりなく」斉唱

誓いの言葉　松本和孝幹事

加藤清行会員スピーチ「未上場株や投信の儲け話にご注意を」

万人幸福の栞輪読　八、明朗愛和

東日本大震災の後、原発事故の放射能汚染を恐れて、多くの外国人が日本を離れて行きました。

そんな中、日本文学の研究者で文化勲章受章し、自身コロンビア大学名誉教授あるドナルド・キーン（Donald Lawrence Keene, 1922–）氏は、「私は日本国籍を取得し永住したい」と表明しました。

行政書士として外国人の出入国や帰化許可申請手続きのお手伝いをすることがある私にとって、それは心に残る決意表明でした。

＊＊＊＊＊

日本国籍取得については以前から考えていました。

今年の一月、腎臓の機能低下からくる重症の痛風を患い、私は三週間ほど入院していましたから、その間、私には考える時間が沢山あり、八十九歳を迎える自分に、後どの位、時間が残されているだろうか。また、残りの人生を、どこでどうやって過ごすべきだろうか、考えていました。

私がこれまで、有意義な人生を送って来られたのは、優しく接して下さった日本の皆さんのお陰です。

民間の団体や政府から沢山の賞や勲章を頂き、多くの方々にとてもお世話になりましたから、その感謝を表したいという気持ちが、ずっと私にはありました。

そういう時、発生したのが東日本大震災でした。

震災直後、放射能の被害を恐れた外国人が、次々に日本を離れて行きましたが、私は、このニュースを読んで、悲しみが込み上げて来たのです。

家族や家を失っても、じっと耐え忍ぶ人たち。この人たちと一緒にいたいと心から思いました。

アメリカにいて、「日本は素晴らしい」という論文を発表するのは簡単です。

しかし、自分に必要なのは日本国籍を取り、この国と共に生き、共に死ぬことだと思いました。

この優秀な日本民族は、大震災という試練を乗り越えて、もっと立派になると確信しています。

私が結婚したのは「日本」という素晴らしい女性ですから、命を全うするまで、この国と共に歩んで行く覚悟なのです。

精一杯輝くために
やりたくないことを見極める

進む方向に迷いが生じ、一体何を目指せば良いのかわからなくなったという経験は、あなたにもある筈。

そんな状況に陥った時には、一体何をやりたくないのか、逆に具体的に「やりたくないこと」をリストアップしてみましょう。

実に単純で当たり前のことなのですが、「やりたくないこと」や「進みたくない道」がどんどん集積されて来るはずです。

そして、意識して客観的に、そのリストの全貌を眺めることによって、あなた自身が一体何をやりたくないのか、大まかな傾向が浮かび上がって来ることに気付かされることでしょう。

それはあたかもガードレールで保護された道のように、絶対に進んではいけない方向や場所が明確に区画されるでしょうから、逆に、進むべき方向を確実に見出すことが出来るのです。

つまり、やりたくないことを一つずつ具体的に書き出し、潰すことによって、反射効として、やるべき方向が見えて来るのです。

人の寿命は限られていますから死に向かって突き進んでいるというだけではなく、今、この瞬間を神様からいただいた貴重な時間を生かせて頂いている、と見ることも出来るわけです。

つまり、「死に向かって進んでいる」のではなく、「今を貰って生きている」のです。

物の見方考え方次第で、生きる姿勢も全く違ったものになることを意味しています。

これがよいと決心！

「些細なことでも継続し続けることは難しい。地域が明るく豊かになることを積み重ねて行くことが幸せになる第一歩」と語る森本真博講師

平成二十四年七月十八日午前六時から第三百六十七回モーニングセミナーが開催され、今治倫理法人会幹事、㈲今治ジーゼル工業、森本真博氏を講師にお迎えし、「これがよいと決心！」と題し、ご講演頂きました。

私は昭和四十二年今治市生まれ。幼稚園から小中高校まで無遅刻無欠席で過ごし、家業と無関係の薬学部へ進学。親元を離れバイト・麻雀・合唱クラブと気ままな東京での大学生活へ。

しかし朝寝坊してある進級試験で躓き、やがて中退。

家業を継ぐため自身を磨く決心で自動車整備士に。

平成十一年、今治青年会議所入会以来、街づくりや人づくりの地域活動として、「城下町全国大会誘致活動」や、「三十五周年記念事業」、「今治・寿太鼓」等の活動を一生懸命やることによって、集団として団体として大きな事業が進む貴重な体験をしたことが、その後のＰＴＡ活動や今治地域の「おんまく」祭りの運営で役に立ちました。

特にＰＴＡ活動では、今治一のマンモス小学校役員を長く務めさせて頂き、夏祭りや校庭を芝生にする事業では、地域社会と一体の活動が出来ました。

昨年、四国中央市倫理法人会の講師として行った際、「五期目の弊害を憂い、ＰＴＡ会長を続けるか否か悩んでいる」と言ったところ、高岡地区長の「これでええんよ」の一言が私の次なる積極行動のきっかけとなり感謝しています。

「人の為、人の喜ぶ事を」「地域が明るく豊かになる事が幸せになる第一歩」の信念のもと、小さな事でも諦めず、積極行動を積み重ねて行きたいと思います。

人生は総てが修行

社会を地道に支えてくれている人たちの活動は、例えば、毎日家事をする奥さんのように、ごく日常の活動で、目立ちません。けれど、社会生活の中、それぞれの役割を誠実に果たして行く中で、心を研ぎ澄ませ、目を凝らし、耳を澄ませた時、色々な事が悟れます。人生は総て修行ですから。

モーニングセミナー

今日一日、朗らかに安らかに、喜んで進んで働きます。

＜制作・著作＞
新居浜別子倫理法人会
ＴＥＬ 0897-65-1644
ＦＡＸ 0897-65-1644
beturin@mx82.tiki.ne.jp

寿命の考え方

私たち日本人の平均寿命はおおよそ八十歳。

客観的に考えてみると、生まれてから八十年程度でほぼ死んで行くということです。

ひたすら命を燃やし続けても、やがては確実に燃え尽きて、確実に朽ち果ててしまうことを意味しています。

しかし、この事実について、少し別の見方をしてみると、八十年間の寿命まで、ひたすら死に向かって突き進んでいるというだけではなく、今、この瞬間を神様からいただいた貴重な時間を生かせて頂いている、と見ることも出来るわけです。

つまり、「死に向かって進んでいる」のではなく、「今を貰って生きている」のです。

物の見方考え方次第で、生きる姿勢も全く違ったものになることを意味しています。